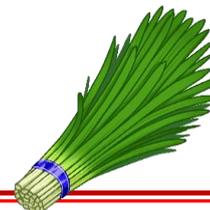




# サンビオティック農業で大豊作！

## にら 栽培基準



### ◆育苗◆

ステージ	内容	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
播種1～2か月前	土づくり	完熟堆肥 有機石灰、又は 転炉スラグ肥料 菌カアップ	1～2トン 100～200kg  5リットル×2回	土壌混和 土壌混和  全面散布	圃場のpHは必ず計測し、pH6.5前後になるよう有機石灰または転炉スラグ肥料を振り、耕耘しておく。 堆肥は、植物質が多くC/N比(窒素炭素率)が15～25程度のものが望ましい。五穀堆肥を使用する場合は、50袋/10aを土壌混和する。 堆肥散布後に菌カアップを散布し耕耘する。その後、2～3週間後に再度菌カアップを散布して耕耘。これにより、土壌微生物の繁殖を促し、団粒化した土づくりを行う。
播種前1か月～2週間	元肥	有機百倍 鈴成 水酸化マグネシウム	5～8袋 5～8袋 15～20kg	土壌混和	有機百倍は、マッスルモンスターに置き換えてもよい。 く溶性苦土(マグネシウム)肥料を、苦土成分10kg/10a程度施用するとさらに良いです。
播種～	発芽促進 生長促進	菌カアップ	5リットル	200倍希釈で灌水 7日おき4回以上	菌カアップで、発根促進、健苗育成を促進します。必要に応じて、糖カアップなどの液肥で生育を調整します。

### ◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
6月	土づくり	バーク堆肥 有機石灰、またはスラグ肥料 菌カアップ	2～3トン 100～200kg  5リットル	土壌混和 土壌混和  灌水	育苗と同様に、pHは必ず6.5前後に調整します。 良質な堆肥がない場合は、五穀堆肥50袋/10aを使用します。
	元肥	マッスルモンスター 鈴成 水酸化マグネシウム	10袋 15袋 10kg	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和する。マグネシウムは必要に応じて施用します。(Mgが多すぎると色が浅くなるので注意)追肥ができない作型では、マッスルモンスター15袋にする。
6～7月	定植	菌カアップ 糖カアップ	5リットル 5kg	灌水(水1トン) 5～7日おきに継続	活着までは菌カアップのみで灌水し、活着促進する。菌カアップ、糖カアップの継続的灌水で、土壌団粒を維持し、発根状態の良い状態を継続することがポイント。
8月～5月	追肥	有機百倍	1～2袋	20～30日おきに土壌散布	有機百倍は、20日～30日おきに追肥する。養成期間は、有機百倍1袋、収穫期間は収穫後2袋が目安。追肥後は、必ず菌カアップ、糖カアップの灌水(下記)。
	生長促進 収量アップ 疲労回復	菌カアップ 糖カアップ 本気Ca(マジカル)	5リットル 5kg 1kg	灌水(水1トン) 7日おき収穫期は継続	生長促進し収量を向上します。特に冬の厳冬期には、光合成が不足し体力を消耗しやすいため、糖カアップが有効です。なお生育不良、微量要素欠乏、葉先枯れ、病害虫対策のため、本気Caを灌水します。
捨て刈り1か月前	貯蔵根発達	コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	2kg 1kg	灌水または葉面散布 5日おき4回	収穫前の捨て刈りをする場合は、その一か月前からコーソゴールド、本気Caを施用し、貯蔵根の発達を促します。葉面散布の場合は、コーソ500倍、本気Ca2000倍、展着剤加用です。
病害虫発生時	土壌病害の対応	菌カアップ 本格にがり	10リットル 2リットル	灌水(水1トン) 5日おき4回以上	立枯病、株腐病、茎枯病は、必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌カアップ、本格にがり病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。
	茎葉病害、 虫害の対応	本格にがり 純正木酢液 コーソゴールド	2リットル 2リットル 2kg	500倍希釈で灌水 5日おき4回程度	葉面散布の場合は、各種500倍希釈で、展着剤を加用してください。 にがり・木酢は細胞壁や繊維を強化し、コーソゴールドは光合成を向上させ、耐病性を高めます。
水害・湿害発生時	応急対策	酸素供給材 菌カアップ	規定量 10リットル	灌水 灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌カアップ10L(50倍希釈)で灌水する。3日後、再度菌カアップ10L(50倍希釈)を灌水する。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。